

楽しみながらやれば、いつか結果がついてくる！

【事業の概要】

須賀川南部地区は松尾芭蕉に由来する、『風流』をテーマとしたまちづくりを進めてきました。

東日本大震災により地域の活動拠点が被災し地域住民の活性化とその継続性が失われつつあるなか、まちなかウォークブル推進事業による広場整備等を実施するとともに、路地を活用したマーケット「Rojima」などの活動を官民の連携により継続的に行っています。



【担当者インタビュー】

須賀川市建設部都市計画課
都市整備係長 永山美志さん

風流のはじめ館とウォークブル広場
(広場は都市再生推進法人株式会社テダソチマが事業主体となってウォークブル推進事業により整備。令和3年2月に完成)

多目的広場「結の辻」も会場のひとつになっているマーケット「Rojima」

※左・中央の写真は「月刊 建設」より

南部地区を照らす軒行灯（のきあんどん）もウォークブル推進事業により整備



Q. この取組におけるあなたの役割・担当は？

係長として整備計画事業、エリアプラットフォームの事務局、地元町内会のイベント参加など担当しています。

Q. 須賀川南部地区のまちづくりでは多様な民間プレイヤーが活躍されています。それはなぜでしょうか？

南部地区のまちづくりが始まってから約20年程度経過してまちづくり活動が定着してきたこと、南部地区に魅力を感じている人が少なからずいて地元にもそれを受け入れてくれる懐の広さを持った人が多いこと、市役所から近い地区であり、部署を移動してもサポートしてくれるような前向きな職員が庁内にも多いこと、でしょうか。

Q. 地域や民間のプレイヤーとはどのような関係を構築されていますか？

(伊勢課長からのコメント) 永山さんは係員時代からずっと地元に入り、信頼を深めてきました。お祭りの際には地元と市職員と一緒に物販をしたりと時間を掛けて地元との関係性を育んできたことで、お互いにお互いし合える関係ができているのでは、と思っています。コロナ禍で最近は難しいですが、地元と役所がお酒を酌み交わしながらまちの未来を語り合える関係になれていると思います。

Q. 全国のウォークブル担当者へ一言！

仕事と思わず、自分も楽しみながらやるのが大事。探りながらでも楽しみながらやれば、いつか結果がついてくるのでは！